

景況レポート

(12月分・情報連絡員80名)

年末需要が縮小傾向

～製造業・非製造業ともに景況感が後退～

【概況(全体)】

12月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向き13.8%(前回調査15.0%)、「悪化」が30.0%(同26.3%)で、業界全体のDI値は-16.2となり、前月調査と比較し4.9ポイント下回った。

製造業、非製造業ともに景況感は後退したものの、全体の景況DI値では依然として全国及び東北・北海道ブロックを上回る結果となった。

【業界別の状況】

鉄鋼・金属が引き続き好調を維持しており、繊維工業、サービス業では悪化割合が減少した。一方、木材・木製品、小売業、鉱業では好転割合が減少し、食料品、卸売業では悪化割合が増加した。

消費者の節約志向の強まりや消費動向の変化により、期待された年末需要は低調に推移し、暖冬による季節商品販売の低迷が景況感を下押しした。原材料・人件費・燃料費等の経営コスト上昇圧力は引き続き強く、人手不足の慢性化も一層深刻な状況となっている。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-16.2	-17.6	-22.1
製 造 業	-21.9	-17.4	-24.4
非製造業	-12.5	-17.8	-20.8

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △10未満
 雷雨 △30以下

【天気図の見方】

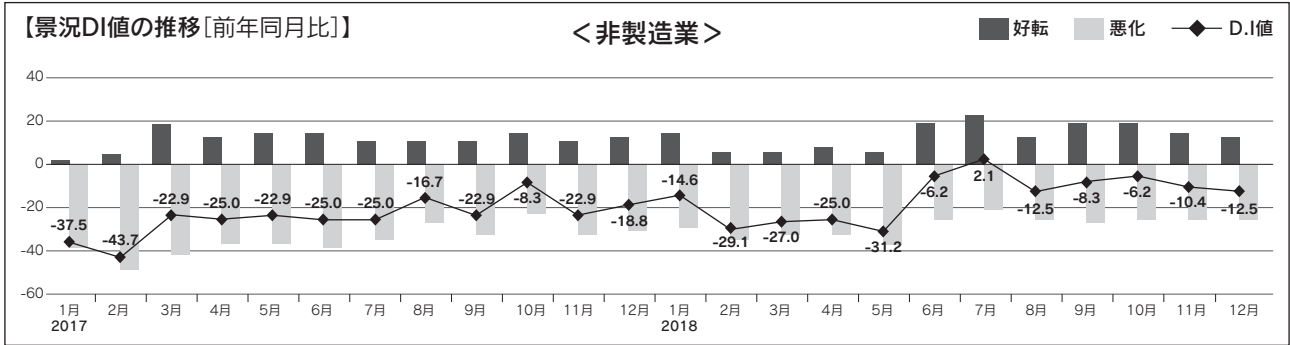
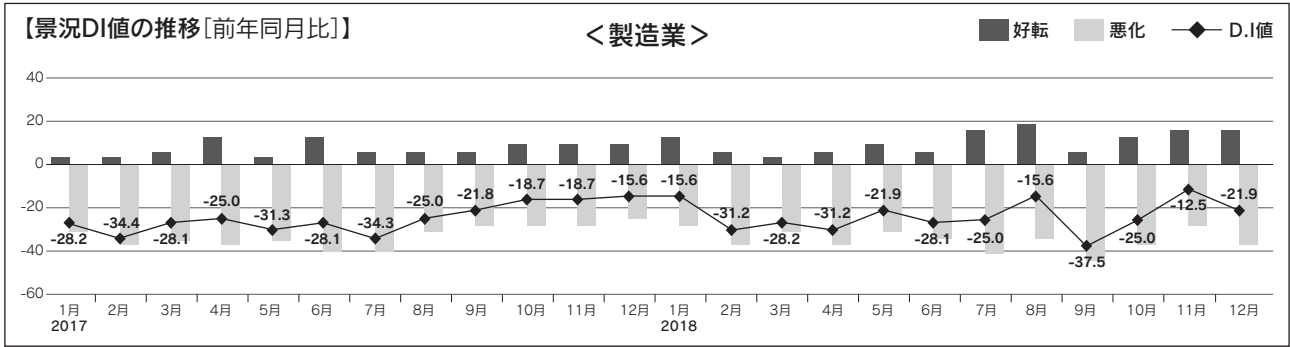
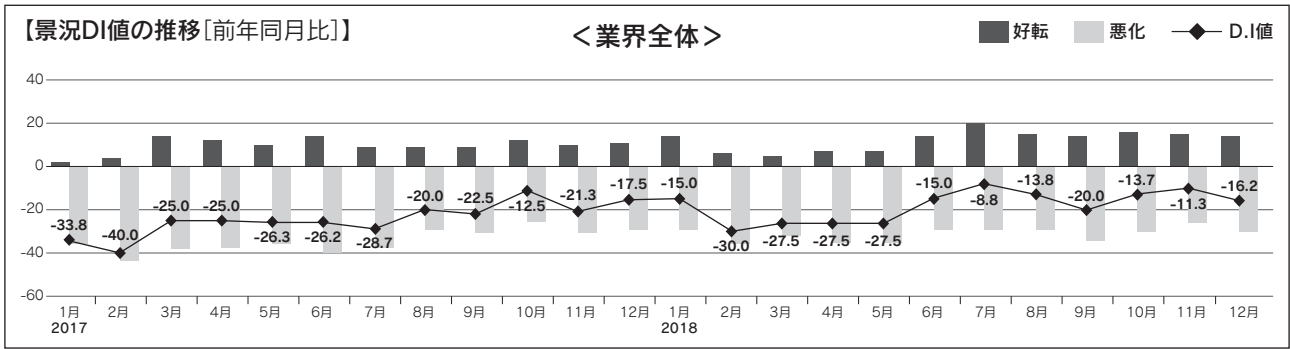
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (菓子)	クリスマスや年末商戦本番だが、クリスマスの売上は平年並みだった。コンビニ・ホテル・ネットなどの参入による影響は大きい。また、クリスマスケーキも核家族化によりデコレーションケーキから小さいケーキへと様変わりしているように思われる。
食料品 (清酒)	11月の出荷数量は1,913,570ℓで前年同月比96.1%であった。タイプ別では純米酒は115.3%と前年同月を上回るが、吟醸酒98.9%、本醸造90.7%、レギュラー酒91.7%と数量減少の状況にある。
繊維工業 (ニット)	先月に引き続き、春物の立ち上がり商品の投入が昨年並みには確保されている。ただし、暖冬により重衣料が売れていないため、各取引先の提示加工賃が渋く採算を合わせるのに苦慮している。
木材・木製品 (素材生産)	一般製材用原木の生産量については安定的に推移しているが、原木の県外への移出が増加していることから、一般製材用原木が不足となり価格が強含みで推移した。合板用原木については先月同様安定した供給となっているが、国産針葉樹合板の引き合いが好調で各合板工場はフル稼働となっていることから、合板用原木の在庫が減少している。
木材・木製品 (家具)	年末需要は例年通りに発生したところではあるが、近年は量的には縮小してきている。この状況にあつては売上高の増加は比して多くはないのは当然である。大都市圏需要向け業務が主体の業者にあつては、売上高自体の数値上昇は営業努力等でカバーしているが、計画・想定したような利益を確保することは大変のようだ。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	12月の出荷数量は前年同月比105%前後となり、4月～12月累計では前年比119%となった。風力発電や災害復旧関連工事の活況から、県南、中央、男鹿南秋、本荘由利地区は出荷が順調に推移している。ただし、今後厳冬に入ることから、工事の進捗率に影響が出ることが予想される。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	12月に入ってからも見積依頼はそこそこ入っており、この先の発注に期待している。受注物件は各社バラつきはあるものの、2～3月頃までは確保されており、稼働率は8～9割程度で推移している。懸念されているボルト、鋼材等の不足は深刻で、当分続くのではないかと心配している。
その他 (曲げわっぱ)	原材料(秋田杉・樺材等)の入手が難しくなっている。今年度中に商品の単価を上げる企業が増えると予想される。また、営業努力をしている企業は需要が伸びているが、怠っている企業においては苦戦を強いられそうだ。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	売上高は前年同月比84.0%で推移した。12月は秋口からの野菜の安値傾向が中旬まで継続し、売上並びに利益ともに確保することが難しい状況であった。12月後半には、一部野菜を中心に急激に物量が減るとともに価格が高騰するなど、物量及び価格の上がり下がり激しい月となり、本組合としては景況が芳しくない状況が続いている。
卸売業 (米麦卸)	平成30年産米の主食用米の販売進捗率は34%となり、12月に入って販売ペースが上がってきた。ただ、量販店における精米の売れ行きは順調とは言えず、今後の動向が気になっている。
小売業 (クレジット)	12月期の総取扱高は前年同月比102%と増加した。取扱高が先月からほぼ横ばいで景気の低迷が感じられる。(県北地区)
商店街	商店街では、暖冬とあって、衣料品の冬物の出足が今ひとつの感があつた。消費者に買い控えの傾向が見られる。(鹿角市) 総じて堅調に推移したものの、衣料品等の小売業は中々厳しかったようだ。(湯沢市)
サービス業 (自動車整備)	自動車検査台数実績から見て、全体では前年同月比で1.9%の減少となった。内訳を見ると登録車が5.7%の減少、軽自動車は2.7%の増加となった。ここ数ヶ月、登録車は前年同月比で減少傾向、軽自動車は増加傾向にあり、全体では減少傾向にある。
サービス業 (建築設計)	当組合は、大型物件の中間納品月である12月を迎え多忙を極めていた。最終納期は1月末であり、繁忙状態は新年に続いていくことになる。さらに、今年度末(3月)納期の物件が数件あり、景況の上向き状況はまだ続きそうである。
建設業 (管工事)	一時降雪があつたものの概ね天候に恵まれ受注工事をスムーズに施行することができた。ただし、人手不足の状況は続いている。(県北地区)
建設業 (電気工事)	前月同様、公共工事は薄い発注であるが、民間工事は設備投資を含め順調である。師走の影響か、人材不足は相変わらずで、工期の遅れが出ているが積雪量が少ないため、遅れを取り戻しつつあるようだ。(県南地区)
運輸業 (トラック)	12月は荷動きが良く、天候にも恵まれ時間どおりに走れた感はある。軽油単価が1ℓあたり8円下がったことで一息つけており、運賃については高い単価で動けたようだ。(中央地区)